



御園だより

令和7年度9月号
大田区立御園中学校
校長 古川 大輔



リスペクト アザース～自分の大切さとともに相手の大切さを認める～

人権尊重の理念

自分を大切にすることと同じように相手の存在や思いを尊重することは、いじめや差別、偏見のない集団や社会をつくるために大切な人権尊重の理念です。道徳授業の題材「リスペクト アザース」*を紹介します。私たちの教育目標は「自他を尊重する生徒」です。相手の大切さを認める——「リスペクト アザース」という考え方をとおして、私たちの生き方について考えてみましょう。

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイクア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『respect others（リスペクト アザース）』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいか、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人たちがいた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前の状況だったので、自分がまわりの人と違うことも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起ってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクト アザース』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味ははっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。

また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはならなかった。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクト アザース』と言った。やる気がなくてエラーをするのはもってのほかであるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。

（中略）

僕は日本でももっと、『リスペクト アザース』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違うことがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

*作・坪井 洸「第32回全国中学生人権作文コンテスト」法務大臣賞受賞作品による

本校ホームページ「Misono Diary」に生徒の活躍、活動の様子を掲載しております。右上のQRコードよりご覧いただけます。また、X公式アカウント「御園中 日々の出来事」を随時更新しております。

道徳授業地区公開講座

本校では、9月1日(月)から5日(金)までを「生命尊重週間」と位置づけ、命の大切さや自他を尊重することの大切さを考える取組を進めています。その一環として、9月3日(水)に「道徳授業地区公開講座」を開催いたしました。今回の道徳科の授業では、人権尊重をテーマに「公共の精神」「人権を尊重する大切さ」「相手を大切に考える考え」を考える機会となりました。5校時の道徳授業を公開しました。協議会では、講師に大田区教育委員会 統括指導主事 中治 謙一先生をお迎えし、「集団の一員としての自覚を高める道徳教育」についてご講話いただきました。授業をご参観いただきました保護者、地域の皆様、また、協議会にご参加いただきました皆様、ご指導いただきました中治先生に心から感謝申し上げます。

自然災害への初期対応

9月1日(月)「防災の日」に地域班での集団下校による避難訓練を実施しました。学校では8月を除く毎月の避難訓練や安全指導をとおして災害への備えと防災に対する意識を高めています。「自然災害への初期対応に関する大田区立学校のガイドライン(大田区教育委員会)」に基づく、生徒・教職員の安全確保の対応にご理解とご協力をお願いいたします。今後とも子どもたちに危険を予測し回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる力を身に付けさせる安全教育を推進してまいります。

地域とともにある学校づくり

令和7年4月1日より御園中学校はコミュニティ・スクールとなりました。従来の地域教育連絡協議会を発展的に解消し、新たに「学校運営協議会」を設置するとともに、これまで学校支援地域本部であった「みその学校サポート」を地域学校協働本部とし、体制を強化しました。コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちのより良い環境づくりに取り組む地域とともにある学校を目指すための仕組みです。委員は学校運営に参画する当事者として学校の運営について意見を述べたり、基本的な方針を承認したりします。協議会における「熟議」をとおして地域とともに特色ある学校づくりを進めます。本校ホームページにコミュニティ・スクールに関する情報を共有してまいります。